

令和3年3月24日

呉竹鍼灸柔整専門学校
校長 村上 哲二 殿

学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会報告

令和元年度自己点検・自己評価結果に基づき、下記のとおり学校関係者評価を実施したので、その結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 齋藤 武久 (公益社団法人 神奈川県柔道整復師会 会長)
- ② 大淵 真 (一般社団法人 神奈川県鍼灸マッサージ師会 副会長)
- ③ 清水 慎司 (公益社団法人 神奈川県鍼灸師会 会長)
- ④ 川名 和明 (川名治療室 院長)
- ⑤ 金城 岳大 (株式会社 リライフ 代表)
- ⑥ 佐久間 裕之 (常楽鍼灸院 院長)
- ⑦ 戸畑 智秋 (ちあき接骨院・ちあき鍼灸マッサージ院 院長)
- ⑧ 阿久津 弘宣 (なおしや はり灸整骨院 院長)
- ⑨ 木ノ内 秀効 (田子浦鍼灸接骨院 院長)
- ⑩ 鈴木 昌子 (在校生保護者)
- ⑪ 岩井 美弥子 (卒業生)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

- 第1回委員会 令和2年12月16日 (呉竹鍼灸柔整専門学校 8階・講堂)
第2回委員会 令和3年3月24日 (呉竹鍼灸柔整専門学校 8階・講堂)
※新型コロナウイルスの影響により、当初の予定より開催日を順延して実施

3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり

以上

I 重点目標について

1. 修学支援制度への対応

国の修学支援制度の申請について、定員充足率、成績評価、財務状況等の機関要件を満たしたため、対象校として認定を受けた。

2. 柔整科附属施術所の自費診療の受入体制の整備

物理療法機器やトレーニング機材を充実させ、ケガの予防や自費診療での受入体制を整備した。今後は、患者や利用者を安定的に確保していくが課題である。

3. Windows10 への移行及びネットワークセキュリティの強化

Windows7 のサポート終了に伴い、学内に設置するパソコンの Windows10 への移行作業を完了した。移行に伴いネットワーク設定等を見直し、セキュリティの強化を図った。

4. 在校生向けゼミの検討

検討段階であるが、学生の学習意欲を高められるような魅力的なゼミが実施されることを期待する。業団等が主催するセミナーへの参加なども推進していただきたい。

5. サークル活動の奨励及び募集

公認サークル取扱要領を策定し、サークル活動がスタートした。今後は、サークル活動が活発に行われるように一層の支援を期待する。

6. 公開講座の実施

今年度の実施は見送られたが、学校の教育資源を活用した東洋医学の普及啓発やケガの予防、普通救命講習など積極的な開催を希望する。

7. 人間総合科学大学との教育交流提携を通じた学位取得制度の導入

大学と専門学校で進路に悩んでいる高校生やキャリアアップを考えている社会人、大学の学位取得を目指している方にとってもメリットのある制度であるため、引き続き、導入に向けて検討を進めてもらいたい。

II 各評価項目について

1 教育理念・目的・人材育成像

教育理念、目的、育成人材像等は教務規程に定められており、学校案内、ホームページ、学校生活の手引き等で周知が図られている。

育成人材像は、外部人材から構成される教育課程編成委員会において業界等の人材ニーズを反映するとともに、企業等の協力を得て実習を実施している。平成 26 年 3 月には職業実践専門課程として文部科学大臣の認定を受けている。

カリキュラム改正後、学外実習の実施にいち早く取り組み、企業等との連携を密にして育成人材像や業界ニーズの把握に努めている。これからの時代に必要な資格者を養成するため、引き続き業団等との積極的な関わりや情報交換を通して、教育の質の向上に取り組まれることを期待する。

2 学校運営

理念等に沿った運営方針を定め、ホームページにて公表している。事業計画は単年度毎に定め、学校運営を適切に遂行するための組織体制を整備している。

理念や学校重点目標を達成するため、各部署毎の上位方針に基づいて個人目標を設定し、毎年度 2 回実施する人事評価において達成状況等の確認を行っている。また、教職員の育成や組織の活性化を図るため、外部委託による人事評価研修を実施している。

情報システム化による業務の効率化への取り組みについては、学生募集、就職支援、成績集計、経理においてクラウドシステムが活用されている。情報セキュリティについては、外部からの不正アクセスや内部の情報量出を防ぐセキュリティゲートが設置され、常時モニタリングされている。

3 教育活動

教育活動は、教育目標、育成人材像、教育方針に基づいて展開し、職業実践教育及びキャリア教育の視点から、あはき師及び柔整師の養成に努めている。

教育課程は、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーにおいて方針を明示し、教育課程編成委員会における外部委員の意見を参考にしながら、業界ニーズとリンクするように授業科目や教育内容等の見直しを適宜行っている。教育目標、教育方針、育成人材像、ディプロマポリシー、シラバス、成績評価等は、ホームページ・パンフレット・学生便覧等により周知している。

教員の資質向上については、学園内に設置する教育センターによる FD 活動、学校協会主催の教員研修会、学会・業団等のセミナー等に組織的に参加することで、教員の能力開発、スキルアップに努めている。

4 学修成果

就職率 100%を目標に掲げ、キャリアガイダンスや合同企業説明会の開催などを通して就職支援が行われている。国家試験に向けて就職活動が後回しになる学生もいることから、2年次後半から3年次前半にかけての就職指導を強化していく必要がある。

国家試験合格率は例年全国平均を上回る高水準の合格率を維持しているが、令和元年度の柔道整復師国家試験については全国平均を下回る結果となっていることから、要因を分析し次年度以降の対策に繋がることを期待する。

卒業生の社会的評価の把握については、校友会組織「呉竹会」、就職先及び実習先との連携や卒業生の取材、関係団体が主催する学術大会等を通して卒業生の社会的評価や活躍状況の把握に努めている。

5 学生支援

就職支援では、事務担当者が定期的に進路調査を行い、その結果を教員にフィードバックし合同企業説明会の開催など就職支援に役立てている。就職活動に先立ち、履歴書の書き方や面接指導、社会人としてのマナー教育などの支援も必要である。

退学率の低減では、成績不良や出席不良を発端に退学につながる人が多いことから、早期の学力把握、個別面談、補習等の対策が行われている。令和元年度の中退率は4.9%で目標の5%未満に収まっている。

学生相談に関する体制では、各学年ごとに担任・副担任が置かれており、学生が相談しやすいよう複数の教員で相談に乗れる体制が敷かれている。学生の心理的なケアに関しては、専任カウンセラーの設置が検討されている。

学納金等の経済的支援では、学校独自の奨学金制度、授業料減免制度、特待生制度が設けられているほか、令和2年度から国が行う高等教育の授業料等負担軽減制度（大学等の学修支援に関する法律）の対象校となっている。

学生の健康管理では、胸部 X 線検診及び健康診断を毎年実施し、学生の健康状態を把握している。校内や実習先での事故等に備え、学生傷害災害保険及び医療分野賠償責任保険に加入している。

保護者との連携体制では、成績不良や出席不良の学生に対して電話や三者面談を実施し、その記録を保管している。保護者との連携を図る上で、学校の情報を提供し、保護者からの質問に対応する場として保護者会の開催などが望まれる。

卒業生への支援では、校友会組織「呉竹会」主催の講演会や懇親会が開催されている他、卒後臨床講習会が定期的に行われ、卒後のキャリアアップ支援が行われている。

6 教育環境

校舎の施設・設備は、関係法令の基準に適合し、且つ教育上の必要性に対応した施設・設備となっている。

学外実習では、鍼灸院、接骨院、医療機関、介護施設等の実習先を約 100 施設まで増やし、実習調整者と企業等の連携体制を確保している。

防災に関しては、消防計画に基づき防災訓練を実施するとともに、災害時における飲料水、非常食、その他の防災用品を備蓄している。学校の安全管理体制では、学校安全計画及び危機管理マニュアルに基づいて行われている。

7 学生の募集と受入れ

学生募集は、神奈川県専修学校各種学校協会の入試倫理要綱に則り、適切に実施している。ミスマッチ入学を防ぐために、高校でのガイダンスや学校説明会等において資格取得の道筋や学習内容、卒業後の進路などに重点を置いて説明するとともに、体験入学やオープンキャンパス等の来校イベントを拡充し、学校の理解浸透に努めている。

学生募集を効果的に実施するために、ホームページ、SNS、学校案内、WEB媒体等を活用して積極的に情報提供を行う一方、養成施設の増加に伴う受験生の確保が永続的な課題となっている。

8 財務

借入金がなく繰越利益金もプラスで推移しているため、中期的に安定した財務基盤が示されている。予算・決算は法人が取りまとめ、財務状況等について監査を受けたのち、ホームページに財務情報を公表している。外部の監査法人による内部統制監査を実施している。

9 法令等の遵守

法令や専修学校設置基準等の遵守と適正な学校運営、個人情報保護に関する対策の実施、自己評価の実施体制の整備と評価の実施、自己評価結果の公表、学校関係者評価実施体制の整備と評価の実施、教育情報に関する情報公開の実施について、適切に努めている。

10 社会貢献・地域貢献

学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献として、学校附属の施術所（はり・きゅう・ほねつぎ）での患者の受入、学園祭でのチャリティー鍼灸やチャリティーマッサージを行っている。チャリティーで集まった収益は、日本赤十字社を通じて被災地への義援金として寄付されている。

国際交流では、学術交流を目的に上海中医薬大学での短期留学が実施されている。

学生のボランティア活動の奨励では、神奈川県体育協会主催の陸上競技やハンドボー

ル大会におけるメディカルサービスステーションのボランティアスタッフとして学生を派遣している。

引き続き学校の教育資源を活用した公開講座やボランティア活動の奨励など積極的な社会貢献をお願いしたい。

以上